研究開発内容説明図

参考資料3

ネットワーク自動制御技術を用いたクラウド救急医療連携システムの研究開発の概要

研究代表者　：木村　哲也（福井大学）　　参画研究機関：金沢大学

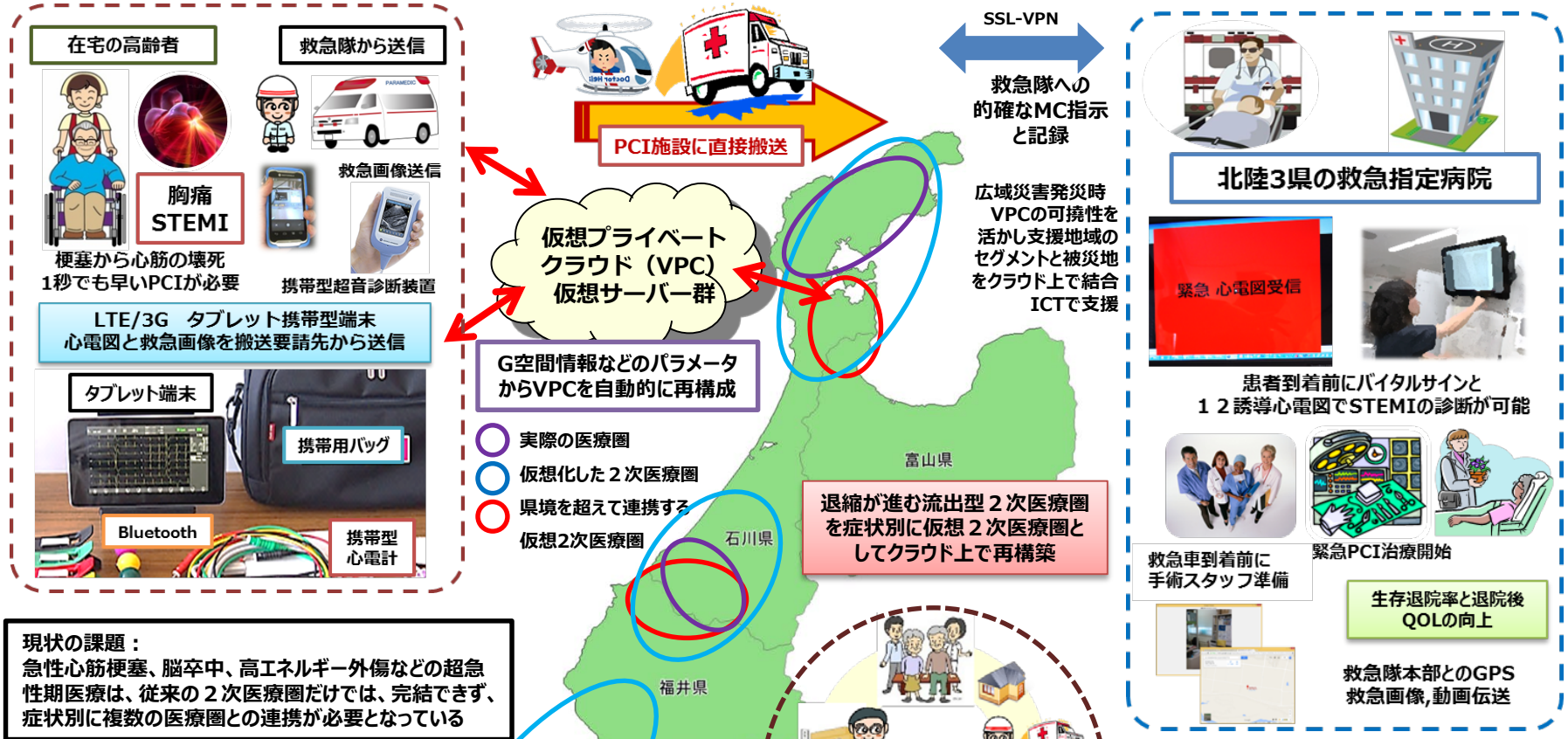
研究開発期間：フェーズⅠ　平成29年度
フェーズⅡ　平成30年度～31年度

1.　研究開発の目的

２次医療圏自体を仮想化し自動的にクラウドの再構成を行うシステムを開発する。患者の疾病と状況に応じてクラウド上にオンデマンドで構築し最適な仮想２次医療圏を流出型２次医療圏の救急隊のタブレットと参加医療機関に提示し、効率的な救命救急活動を行う事を目的とする。

2.　研究開発の概要

高齢化と過疎化が進む地域では、従来２次医療圏内で完結した心疾患や脳卒中などの超急性期治療が医師をはじめとする医療資源の流出により域内の医療機関だけでは成り立たなくなってきている。ICTを利活用して複数の医療機関及び救急隊が広域に連携することで、総合的な地域住民サービスの提供を可能とするシステムを確立する。



現状の課題：
急性心筋梗塞、脳卒中、高エネルギー外傷などの超急性期医療は、従来の２次医療圏だけでは、完結できず、症状別に複数の医療圏との連携が必要となっている

本研究によって、参加機関がクラウド上で相互に連携することで県境を超えた仮想２次医療圏として地域住民に最適な搬送先を選択できる

3.　期待される研究成果及びその社会的意義

モバイル通信を利用した個人向けヘルスケア機器の普及が始まっている。これらや複数の種類の救急隊端末やデバイスからのビッグデータをIoT端末でクラウドに集約することで、ePHR（電子的個人医療記録）として救急医療側が利用しやすい形式で提供し活用することが可能になる。大規模災害時においては、マイナンバー制度と連携することで複数の救急隊向けクラウドシステムを総合した広域連携ネットワークとしての用途も期待できる。